

静かな空

連絡先 742-2602 山口県大島郡周防大島町油宇 福田忠邦 Tel+ Fax: 0820-75-1045

周防大島町上空 お盆の米軍機飛行

「岩国日米協議会」の申し合わせによれば、「盆（8月13日～16日）は飛ばないようにする」ということになっています。しかし、今年8月15日の午後、周防大島町日前地区上空を、約1時間、米軍戦闘機が飛行しました。

14:00 すぎ 頭上を戦闘機轟音が通過。真上は屋根があるため、機影を見ることはできない。ただ単純に飛行しただけでなく、途中で天空に大きな穴があいたかというような大きな爆発音が轟き、グオーという爆音にかわって、南方向へ飛んで行った。エンジンの切り替えか何かをしたのだろうか。

14:15 北北東から南南西方向へ、首の長いジェット機が窓外の空を一直線に飛んで行った。ホーネットと思われるが、機種知識の乏しい私には判断できない。

14:20 北から南にむけて、同種音の戦闘機の轟音がとんでいった。こんども真上なので、室内からは機影をみることはできなかった。

14:40 また1機飛んでいった。雲がひろがってきたので、機影は見えず。

14:50 また1機、やや北寄りのコースで東の方向、東和町・白木山の方向へとんだようである。やや雲がうすくなったが、機影は見えず。

14:55 西から東へ1機飛んだ。機影をさがすと、やっと雲間に1機みえた。機影としては小さいので、高度は高いのだろうが、その高度にもかかわらず、とどろく轟音が天空を支配した。近くで聞いたら、ものすごい音だろう。巨体の旅客機の音より、小型戦闘機の爆音のほうが格段に大きいというのが、私にはなかなか納得できない。また、曇り空のほうが、爆音が上空全体にひろがるという傾向がある。

追記

この日、この時間帯、周防大島町三蒲地区では、1－2機の飛行があった程度。通常の飛行コースは、久賀方面から文珠山へきて、文珠山をぐるりとまわって、北側の椋野の方向へ向かい、一直線に岩国基地に着陸するのだが、この日は文珠山の手前で旋回して、久賀方向へ飛んで行ったように感じたといいです。これは文珠山中腹に居住する住民からの報告です。（日前住民）

盆あけの文珠山上空

8月18日

- 12:30 艦載機飛行
13:30 艦載機飛行
オスプレイ2機 相継いで飛行
17:20 艦載機飛行

戸村良人 写真報道

8月26日の文珠山飛行 (<http://tomura.lolipop.jp/>)



13時34分 文珠山に着いてから、約30分、轟音が聞こえました。小さいのでわかりづらいのですが、米陸軍 UC35 (厚木基地所属) のようです。

13時41分 これはお馴染み海上自衛隊 US-2 救難飛行艇 (岩国基地所属)



13時50分 また米陸軍 UC35

14時13分 こぶが2つ。海上自衛隊 EP-3 電子戦データ収集機 (岩国基地所属) です。岩国基地の方にすぐには行きません。文珠山頂上の周りを回るようです。



14時16分 海上自衛隊 EP-3 電子戦データ収集機の周回。西の方向、周防大島と上関の間の海の上空です。柳井

の上空で北に向きを変え、米軍岩国基地に向かって、小さくなっています。



14時37分 また米軍機 UC-35 (厚木基地所属) のようです。

14時44分 南 (上関の手前) の上空に全日空旅客機定期便。この全日空定期便も、柳井上空から由宇上空を通



て、岩国基地に飛んでいきました。この後2回大きな轟音が聞こえましたが、雲が厚くなってきて見る事が出来ませんでした。



15時19分 これは判りづらいですが、海上自衛隊 OP-3 画像データ収集機 (岩国基地所属)。これも上関から柳井上空、そして由宇上空、岩国基地へと飛んでいきます。

15時31分 文珠山頂から降りようと下の駐車場に着いたところで、轟音が。写真がとれるいい場所がなく、この1枚がヤットでした。



この日は晴れ。麓から文珠山山頂を見ると良く見えました。しかし山頂では、風が強く、雲も厚かったです。大事を取って早めに降りてしまいました。気象条件の良い日にまた登ってみます。

夜間連続飛行 9月3日

19:00-20:10 艦載機が文珠山中腹の住宅の真上を6回飛行。夜間なので機数、機影は確認できなかった。(三蒲住民) ちょうどこの時日前上空も、かなりの爆音で、少なくとも2回飛行した。

戸村良人 写真報道 9月12日の文珠山飛行



9時31分 着いてしばらくして、音がするので見ると海上自衛隊 MCH-101 掃海・輸送機 (岩国基地)。周東町の自宅でも毎日のように見えています



10時07分 海上自衛隊 MCH-101 掃海・輸送機 (岩国基地) 30分前と同じ機か?別の機か?これは「54」と読めますが、前の機の機体番号がハッキリ読めませんので、そのあたりは良く判りません。

(12)10時17分



10時17分 小型の米海兵隊 UC-12F スーパーキングエア 輸送機 (岩国基地) が飛び回ります。**10時21分** 米海兵隊 UC-12F スーパーキングエア 輸送機。同機2周目。**10時27分** 同機3周目。5分置きぐらいに頭上を飛び回ります。





11時19分 米海兵隊 F/A-18/D ホーネット 戦闘攻撃機（岩国基地）が轟音をあげて飛んできました。10日に多くのKC-130がグアムに飛んで行って、岩国基地には今はホーネットは7機しかのこっていないので、飛ばないのかな？と思っていましたが、毎日のように飛んでいる周防大島の上は今日もこの通りです



11時29分 2機目の米海兵隊 F/A-18/D ホーネット 戦闘攻撃機（岩国基地）が大島大橋の方向（西北）に。



13時16分 航空自衛隊 T-4 練習機（築城基地）は由宇上空から岩国基地方向に。車輪を出しています。このあと双眼鏡で岩国基地を覗いたらT-4が滑走路にいるのが見えたのでこの機が降りたのでしょうか。私のカメラでは基地の航空機までは写せません。



14時32分 米海兵隊 KC130J 空中給油機 ハーキュリーズ（岩国基地）が頭の真上を。

14時36分 米海兵隊 KC1230J 空中給油機 ハーキュリーズが又現れました。3分前に飛んだものです。これは空飛ぶガソリン・



タンクと呼ばれ、住宅地で墜落したり、ガソリンを振りまいたら、街は火の海です。

この日はあまりに多かったので、以下次号とします。

新刊紹介

藤村英子著

言いたいことがあるんよ！ 2014年10月10日初版発行 167p

1994年から2004年までの10年間に、全国紙、地方紙に投稿した記事を集めて、単行本として出版しました。見出しには憲法9条、有事立法、戦争責任、靖国問題、従軍慰安婦、辺野古住民投票、米軍岩国基地、米軍機低空飛行訓練、教科書検定、日の丸・君が代、上関原発、臨界事故、介護保険、吉野川住民投票、官僚の宿泊費、ハンセン氏病裁判、核実験、ODA、イラクへの武力行使、NHK報道、マスコミ報道と、日本・世界の重大問題が網羅されています。五味川純平、菅直人、澤地久枝、住井すゑ、太田沖縄県知事、橋本大二郎、劉連仁、河合隼雄、新藤兼人、高木仁三郎、山尾三省、松下竜一など、現代のリーダーの名もあり、多くは直接面談した人たちです。

超感度の高性能アンテナの持ち主で、世界の出来事への素早い反応は舌を巻くばかりですが、家族や身近の出来事を語る「十行随筆」「日々想うこと」には著者の日常生活も伺えます。長女が満米寿を記念して出版しました。今も車を運転し、私も時折り便乗させて頂きます。決死の覚悟で。 河井弘志

瀬戸内ネット 岩国市長へ質問状

「盆の米軍機飛行はしない」のではないのか

岩国市と国・県の関係機関は、昭和46年2月、「岩国日米協議会」を発足させ、昭和46年7月14日から、平成3年5月15日までの協議で、「飛行方法」について、

「盆（8月13日～16日）は飛ばないようにする」と申しあわせました。しかし、今年8月15日には、周防大島町日前地区上空を、約1時間、米軍戦闘機が飛行しました。

そこで「瀬戸内ネット」は、8月18日、福田良彦岩国市長あてに、つぎのような質問書を提出しました。

岩国日米協議会での確認事項に関する質問書

岩国日米協議会での確認事項によると

「岩国市の基地対策3 飛行規制等 飛行方法④ 盆（8月13日～16日）は飛ばないようにする」

とあるにもかかわらず、この期間、岩国市、周防大島町、広島県廿日市市などで米軍機の日撃情報や爆音情報がありました。

岩国日米協議会の確認事項が守られていないことについて、市民の安心・安全という観点から岩国市としてどのような対応をされるのか、お聞かせ下さるようお願い致します。

岩国市回答

離着陸は禁止せず ★ 苦情電話がなければ基地に抗議せず

この質問書にたいして、岩国市（基地政策課）が示した回答は、「市としては離着陸まで認めない訳ではない」というものでした。確認事項で「飛ばないようにする」とあるのに「離着陸まで認めない訳ではない」とはどういうことでしょうか。

また、米軍岩国基地に対して特別、抗議等はしないとのこと。理由は、「苦情の電話やメールが少ない」からだそうです。苦情が多いか少ないかには関係なく、市民の安心・安全を守る立場の自治体として、決まりは守るよう米軍側に言っていくべきではないでしょうか？

（以上、瀬戸内ネット事務局の伊達純さんの報告による）

岩国市の回答には二つの問題があります。

1. 「岩国日米協議会確認事項」でいう「飛行方法」には「離着陸の飛行」は含まれない、ということだが、基地周辺の飛行は大部分が滑走路からの「離陸」と滑走路への「着陸」のための飛行であって、それを除いたら、

ほとんど米軍機の飛行はないことになります。「離着陸」は「飛行」ではない、ということでは、基地周辺の飛行は、ほとんど規制を受けないことになり、「確認事項」の意味はなくなります。「離着陸は飛行ではない」という日本語が通用するとでも思っているのでしょうか。

2. 飛行騒音にたいする苦情電話やメールが少なければ、岩国市は米軍に抗議することはしないとのことですが、岩国市は基地周辺の住民の生活環境を守るための職員を配置して、常時、米軍機の飛行状況を監視し、市民・住民に代わって米軍に抗議を申し入れる任務があるはずで

す。岩国市のかわりに、市民が米軍機を監視するというのであれば、それは業務委託ということになります。騒音測定器をとりつけるだけで、市としては騒音監視をしないで、無償で市民に監視の業務をさせるというのは、すこし勝手によすぎるのではないのでしょうか。

周防大島町 「基地関連対策特別委員会」は何をしているか

同じことは、周防大島町などの周辺自治体についてもいえます。

住民の生活環境を守るためには、そのための監視職員を配置し、常時、騒音情報を岩国市や基地へ通報すべきであって、いつまでも住民ボランティアの騒音情報提供に甘えているわけにもいかないでしょう。

周防大島町は今年7月、岩国基地との関係で「本町の住民負担の軽減と安心安全をどう確保していくのか」を検討するために、再び「岩国基地関連対策特別委員会」を設置しました。この設置目的によれば、周防大島町は日常的な爆音災害の実態をしっかりと調べて、岩国市と岩国基地に、少なくとも「確認事項」を守り、爆音災害を防止・軽減するよう、要請する任務があります。委員会はそのために何をしているのでしょうか。

神奈川県知事

基地の整理縮小、返還、負担軽減を求める姿勢 変わらず

7月30日、厚木基地にオスプレイが飛来したことに抗議した、基地周辺の4団体にたいして、神奈川県基地対策課は、「基地の整理縮小、返還、負担軽減を求める姿勢に変化はない」との県知事の意向を伝え、今後も騒音、事故の不安をなくすよう情報開示、再発防止などにも努める、と回答しました。

厚木基地周辺の住民団体は、艦載機59機を岩国基地に移転するので安心してはいるわけではなく、基地を縮小廃止の方向でがんばっており、県知事にもその方針を約束させています。

山口県知事にも、同じ約束をさせることができるといいですね。

(「厚木基地を考える会ニュース」236号より)

「原発ゼロ・ドイツ」を支えているものは

この夏ドイツへ行きました。友人の車でベルリンからハレまで、アウトバーン（高速道路）を走り、ハレ近くなると、両側に風力発電のプロペラがつぎつぎとあらわれました。時速160キロで走る車から写真をとるといのは大変です。必死でシャッターを切りました。



レゲンスブルクからランズフートまで、今度はICE（新幹線）で走ると、両側に太陽光発電がつぎつぎと現れてきました。ハレはザクセン・アンハルト州、ランズフートはバイエルン州なので、州によって自然エネルギーの利用法が違うのかもしれませんが。



ドイツ政府は「福島原発」の爆発事故をみて、ただちに「2022年まで原発ゼロ」を決定、いま廃炉技術の研究もすすめているようで、今年ライプニッツ学術協会が刊行した『エネルギー転換』には「ラインスベルク原発」の取り壊し工事の写真いり解説も出ています。

これほどキッパリと原発ゼロに踏み切ることができたのは、すでに自然エネルギー利用の発電所建設が、かなり進んでいたからでしょう。

辺野古のジュゴンから

名護市においてジュゴンの海に新基地の建設に反対する稲嶺市政を支える名護市民の一人として熱い連帯のメッセージをおくらせて頂きます。

年明けの名護市長選からこの9月7日の名護市議選に至るこの数ヶ月、また来る11月の沖縄県知事選へ気の抜けない日々の中にあります。すでに、ジュゴンの海は私たち住民と隔てられ、そこを餌場としているジュゴンさえ立ち入れない「戒厳令」の海になってしまっています。

どんな法律も、科学的知見も無視した「治外法権」の中で、ジュゴンの海を取り戻そうとする市民に対し、右翼政権の僕と化した海上保安庁による暴力が繰り返され、私たちの科学調査でさえ、「安全指導」という名目の恫喝によって海上から排除される状況です。安倍政権は沖縄知事選前に埋め立て工事の着工を既成事実化し、8割に迫る沖縄県民の辺野古埋め立て反対の願いを打ち砕き、沖縄の自立をあきらめさせようと躍起になっています。

ボーリング調査後に予定されている辺野古崎の岩礁破碎や2062万立方メートルの土砂搬入は取り返しのつかない自然環境へのダメージを与えるでしょう。沖縄防衛局が昨年提出した埋め立て申請書には、土砂の構成比は「岩ズリ」79.7%、「山土」17.5%、「海砂」2.8%で、山土と海砂は沖縄本島と近海から、岩ズリは半分程度が県外から搬入され「岩ズリ」の調達先として、沖縄に加え九州・瀬戸内の7地区・13カ所の採石場が記載されています。このうち、瀬戸内では小豆島（香川県）や黒髪島（山口県周南市）などが記載されています。この事業の及ぼす環境破壊はたぐいまれな亜熱帯の島嶼環境の破壊だけでなく、温暖な山陽沿岸の瀬戸内海の景観や海洋生態系の破壊も伴うことに心から憤りを禁じ得ません。

私たち名護市民は、今後どのような事態が起ころうともあらゆる方策と固い意思を持ってジュゴンの海を守り抜き、11月の沖縄県知事選を勝利に導き、平和な島から戦争の基地を追い出す第一歩とする決意です。

私たちは共に、日米安保の重圧の中で基地負担を強いられ、豊かな環境と静かな暮らしを奪われることにはっきりと拒否を示し、民主主義と地方自治の元に、次世代にわたる「環境保全」の権利を掲げようではありませんか。

沖縄県名護市 鈴木雅子 **北限のジュゴンを見守る会** <http://sea-dugong.org>

大島の静かな空を守る会 協力金（自由意志）

郵便振替口座

記号番号 01380-1-88949

口座名称（カナ）カワイヒロシ